

研究会だより

すでに、この研究通信にも報告してあげたように、農村研究に志をもつ若い私達は、四月末以来、アメリカ農村社会学関係の書物を読む会を毎週つゞけてきた。まず、一九三五年度までの一般的傾向をたどり、そろそろ知識を共通のものとしてから、近年の戦況を順次、読んでいった。そして、主要な問題を

さらに *Socially Group* にしぼり、これを焦点としてさらに、モノタラフックな調査報告の類をとりあげている。もちろん、基礎的であるいは組織的な知識を充分にもっている私達ではない。したがって、読みこなす力に足らざる点の多いことを承知している。また、島崎君の文中にもあるように、アメリカ農村社会学に対する不満が意欲をそがせることになる場合も少なくない。しかし私達は、すでに公にされている鈴木・喜多野両先生の紹介論文のあとに、つゞくものを、なにほどこでもえられたならばと思つて努力している。現在は休暇甲のため中止しているが、九月中旬以後、ふたたび毎週木曜日の五時頃から、東大社会学研究室において研究会をもつことにしている。先生方の御教示と、同じ熱心をもつ方々の御参加を願つてやまない。

なお、この会でとりあげた問題の一部を、島崎君と松原君に報告してもらつたが、この研究会のメンバーは、いまのところ、両君のほか、藤原武夫君、蓮見春彦君、および原本の五名である。